

IT時事ネタキーワード「これが気になる！」(第30回)

IoTとAIで“トイレソリューション”

2018.09.04



トイレのために長蛇の列に並ぶのは、誰も効率が悪く感じる。トイレの空き状況をITでという試みは、以前から行われているが、最近話題になったのは小田急電鉄だ。小田急電鉄は、新宿西口地下改札内のトイレ入り口のディスプレイに、トイレの利用状況や、新宿駅にある2つのトイレの空き情報を表示する。状況はスマホアプリでもチェックできる。「こんな機能を待っていた」と、SNSで共感の声が相次いでいる。

今年の3～5月、IoTとAIを用いた最新技術でトイレの混雑を回避する実証実験が有楽町マルイで行われた。トイレの空き情報をリアルタイムに配信するほか、混雑のない時間帯にはAIが情報を分析して広告配信を行う。ほかにも、利用状況に応じた節電や節水、清掃やメンテ、オフィス全体の利用状況の表示など、サービスは多方面に広がっている。「トイレ」のIT化について、探してみたい。

空き状況を確認できる「IoTトイレ」サービスの実現や実証実験が続々

イベントなどでは、長蛇の列のトイレがあるかと思えば、余裕のあるところもある。だからといってトイレ専用の係員を置くのも非効率。トイレの状況がスマホでリアルタイムに分かれれば、と思う。オフィスのトイレも同様だ。特にお昼時などだ。仕事を中断してトイレに行ってみたら満室で、いったん席に戻り、またタイミングを改めてトイレに行くとまたもや満室ということがよくあり、これもITで効率化できれば、と思う。



スマートフォン上の「小田急」アプリで確認できる新宿駅トイレの空き状況

小田急電鉄のシステムは、KDDIのトイレのIoT化支援サービス「KDDI IoTクラウド ～トイレ空室管理～」を利用して構築されている。個室トイレのドアに付けられた開閉センサーと、男子トイレに付けられた人感センサーを利用する。

このように空き情報が事前にチェックできる「IoTトイレ」は、基本的にはトイレのドアの開閉を感知するという、比較的シンプルな仕組みで実現できる。万人がメリットを享受しやすく、導入のハードルもそれほど高くない。そういえば小田急電鉄だけでなく、東京外口も昨年末から今年初頭にかけて、池袋駅で「トイレ空室状況提供サービス」の実証実験を行っている。そんな感じで今後、さまざまな場所で実現されていきそうな気配だ。

トイレのハイテク化は加速する！？… 続きを読む